

平成30年度第1回北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日 時：平成30年7月23日（月）午後7時00分～午後9時8分

場 所：北とぴあ 14階カナリアホール

1 開 会

2 議 題

- (1) 北区の人口の現状について
- (2) 北区人口推計調査の結果報告について
- (3) 北区版総合戦略重要業績評価指標（KPI）の平成29年度実績について
- (4) 「近年の人口動向と外国人材受入れの課題」  
【加藤会長（明治大学政治経済学部教授）より講義】
- (5) その他

3 閉 会

出席者	加藤 久和会長	岩崎美智子副会長	遠藤 薫委員
	足立賢一郎委員	池本 洋一委員	越野 充博委員
	佐々木幸彦委員	関口 努委員	永沢 映委員
	今井 直樹委員	内海千津子委員	柴田恵理子委員

## ○会長

どうも、皆様こんばんは。本当に暑いときに皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。今日は熊谷で日本最高記録の温度になったというようなニュースもありました。この暑い中、よろしくお願いいいたします。

それでは、これより第1回北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催したいと存じます。本日も、委員の皆様におかれましては活発にご議論いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

なお、今回より足立委員、佐々木委員、関口委員に新たにご参加いただいております。ここで簡単に自己紹介をお願いできればと思います。

## ○委員

北区民生委員児童委員協議会から参りました、足立でございます。今紹介していただきましたように、この会議は初めて出席させていただきます。と言いますのは、私は5月から北区の代表ということでお引き受けをしておりますので、まだまだ何が何だかわからない、無我夢中でやっている状態でございます。この会議の内容もまだ把握しきれていないような現状でございますけれども、勉強させていただいて、皆様に何とかついていければと思っております。よろしくお願いいいたします。

## ○委員

皆様こんばんは。ハローワーク王子の佐々木と申します。この4月から着任をしております。ハローワークは国の行政機関ではございますけれども、やはり地域密着と言いますか、地元の自治体の性格に近いと思っておりますので、有機的な連携を展開していくということが重要な課題となっております。今回のこの戦略会議におかれましても、高齢者の活躍の促進ですとか、あるいは子育てという部分ではございますけれども、女性の活躍促進といったところも、今後重要なテーマとなっていくのかなと思っております。そのためには、ワーク・ライフ・バランスの推進、先月、働き方改革の法律が成立いたしましたので、そういった取り組みを進めていくというのが、一億総活躍のためにも有効なところだと思っておりますので、ぜひそういった分野で参画させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

## ○委員

皆様こんばんは。滝野川信用金庫の業務部というところに配属になりました、関口と申します。この7月に正式に配属となりまして、まだまだ右も左もわからないという状態でございます。いろいろ私もご指導を仰ぎながら精一杯務めさせていただきます。少しでも力になれるように頑張ります。どうかよろしくお願いいいたします。

## ○会長

どうもありがとうございました。

まずはじめに、事務局より、お知らせと配付資料の確認をお願いします。

## ○区

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

まず、事務局から委員のご欠席のご連絡をさせていただきます。本日は、大塚委員よりご欠席のご連絡をいただいております。

では、配付資料の確認をさせていただきたいと思います。事前に郵送させていただきました資料が6点ございます。資料の1から5という形となりますが、一つずつ確認をしていきたいと思います。

まず、本日の平成30年度第1回の総合戦略推進会議の次第でございます。そして、資料1といたしまして、委員の皆様の名簿でございます。資料2といたしまして、北区の人口の現状についてというものでございます。そして、資料3がピンク色の冊子になってございますけれども、北区人口推計調査の結果になります。調査報告書ということで、本編と概要版をあわせてお送りさせていただいております。資料4にまいりまして、北区版総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の平成29年度の実績一覧でございます。そして、資料5といたしまして、このあと会長からご講義いただきますが、近年の人口動向と外国人材受入れの課題と書いてある資料でございます。以上が、事前に郵送させていただいたものでございます。

また、本日追加ということでお配りしたものが資料6-1ということで、まち・ひと・しごと創生基本方針2018概要版でございます。こちらは国の資料です。資料6-2といたしまして、まち・ひと・しごと創生基本方針2018についてというものでございます。そして、「北区時間」という冊子をお配りしてございます。とても素敵な冊子でございますけれども、こちらにつきましては、本日ご出席いただいております東京商工会議所北支部の越野委員よりご提供いただいた資料でございます。後ほど簡単に委員からご案内いただけるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございますが、何か不足等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

## ○会長

ありがとうございました。それでは、早速、本日の議題に入りたいと思います。本日の議題は、最初に北区の人口の現状について等、次に人口推計のブリーフィング、それから意見交換等をさせていただきたいと思います。なお、本日も委員の皆様それぞれのお立場からご意見をいただきたいと思います。後ほど私からも資料をご用意しておりますので、その後にご意見をいただければと思っております。

それでは、北区の人口の現状について、北区人口推計調査の結果報告について、北区版総合戦略重要業績評価指標（KPI）の平成29年度の実績について、事務局より一括して資料の説明をお願いいたします。

## ○区

それでは、資料2からご説明をさせていただきたいと思います。資料2をご覧ください。こちらは、北区人口ビジョンというものがございまして、平成28年3月に作ったものが最新となっておりますが、その中で新たなデータ等が入手できたものについて、更新をした情報をお配りさせていただいているというものでございます。

では、1ページからご説明をさせていただきたいと思います。1ページの図表3と図表4でございますけれども、北区の住民基本台帳によります2017年のデータを追加したものでございます。

まず上段の図表3でございますが、出生数と死亡数の推移を示しているものでございます。死亡数につきましてはほぼ横ばいですね、2016年、2017年をとっても、ほぼ横ばい。出生数につきましては、2011年以降2016年までは伸びているような状況でございました。ただ2017年のところを見ていただきますと、2016年と比較して、若干減少をしたというような結果になってございます。

次、下段の図表4でございます。こちらが転入数及び転出数の推移というものでございまして、こちらは2011年以降になりますが、ずっと転入超過の状況が続いているというようなことで、こちらは大きな変化はないというところでございます。

次に、2ページをご覧ください。こちらが図表5でございまして、自然増減及び社会増減についての表になります。2016年から2017年の変化のところを見ていただきますと、社会増減の増加が少し2016年と比較しまして2017年は減少をしております、全体の人口の増加の抑制にもつながっていると言えると思います。また自然増減につきましても、前のページにもありましたように、死亡数はほぼ横ばいであったものの、出生数はやや減少したということもありまして、マイナスの幅が2016年のときと比較しますと、少しだけ大きくなっているというようになってございます。

次に、3ページにお進みください。図表6では、合計特殊出生率の推移というものをお示ししております。国、東京都、特別区、そして北区ということで比較をしているものでございますが、国、東京都、特別区のところを見ますと、2015年から2016年では若干の減少と横ばいになっているという状況でございます。そのような中で北区におきましては、2015年のところを見ていただくと1.22、そして2016年には1.26ということになっておりまして、0.04ポイントほど伸びているというような状況でございます。

さらに欄外のところを見ていただきますと、参考ということで、2017年の国と東京都の状況をお示しをしております。国においては2016年に1.44あったものが、2017年で1.43になっているという状況。東京都におきましては2016年に1.24だったものが、2017年に1.21となっておりまして、やや両方ともに減少をしているということになっております。北区の2017年のデータというものは、まだ公表をされていないので、明らかになり次第お示しをさせていただきたいと思っております。

次に、4ページと5ページをご覧ください。こちらは図表9ということで、各市町村との転入・転出の状況というものでございます。4ページのほうが転入数になってございます。下段が2016年、上段が2017年の状況ということで、転入につきましては、上位2位の変化はありません。3位以下に若干の変動があるというような状況でございます。

そして、お隣の5ページが転出数でございまして、こちら1位、2位は2016年、2017年で変化はございませんが、3位以下に若干の動きがあるというような状況でございます。

次に、6ページ、7ページをご覧ください。こちらは図表10で、各市町村との転入超過・転出超過の状況というものでございます。6ページが転入超過数となっておりますが、こちらでも2016年、2017年を比較しますと、やはり1位、2位は変化がありません。3位以下に順位の入れかえがあるような状況でございますが、転入超過の8番のところに東京都八王子市というのが入ってきたということで、こちら2016年を見ますと、10位の中には入っていなかったというところが2017年で入ってきているというものになっています。

そして、7ページの転出超過数につきましては、1位は川口市ということで変わらざりましたが、2位以下は変動があるような状況です。さらに2017年を見ていただきますと、さいたま市の行政区の三つが10位以内に入ってきたというようになってございます。

次に、8ページをご覧ください。こちらは図表11で、転入前の住所地別割合というようになっております。こちらでも2016年と2017年を比べますと、ほぼ同様の割合ということで大きな変化はないかなというふうに見ています。

次に、9ページ、図表12が転出後の住所地別割合ということで、こちらでも2016年、2017年で見ますと、大きな変化はないような状況でございます。

次に、10ページをご覧ください。こちらは図表13ということで、外国人人口の推移をお示しをしております。こちらは2013年以降、ずっと伸びているような状況になっております。2017年から2018年のところを見ていただきましても、非常に増加の勢いが強まっているというところが見ていただけるかと思っております。参考欄にお示ししておりますが、平成30年7月1日現在で北区の外国人人口2万1,588人というようになっております。総人口に占める割合は6.17%ということになっております。

次に、お隣の11ページ、図表14です。昼夜間人口の推移ということでございます。こちらは2015年の国勢調査データが追加されたということで更新をしたものでございます。2010年と2015年を比較いたしますと、昼夜間人口比率というところが0.9ポイントほど高くなっているような状況でございます。

次に、12ページをご覧ください。産業関係の数値に入っております。図表16では事業所数の推移ということで、産業大分類というところでございます。こちらは平成28年の経済センサスのデータによりまして更新をしたものということでございます。平成26年と比較しまして、平成28年では教育・学習支援業、医療・福祉というあたりが、事業所数が若干増加をしているかなというように見られます。そのほかは減少、またはほぼ横ばいの状況ということになっています。

お隣の13ページ、図表17が従業者数の推移というものでございます。こちらでも平成26年と平成28年を比較してみますと、真ん中あたりにあります、不動産業・物品賃貸業、あとは医療・福祉に関しては、やや増加の傾向が見られるということですが、そのほかは減少をしているような状況でございます。

次に、14ページをご覧ください。こちらは図表18となっております。事業所の新設・廃業比率の推移というものでございます。下段のほうが平成26年と平成28年の比較ということで見ていただければと思いますが、新設の比率というのが、平成26

年時点より少し下がっているような状況でございます。ただ、この傾向は北区だけに限ったことではなく、東京都と23区のところもお示しをしておりますが、同様の状況になっているというところです。また、廃業比率については大きな変化はないかなというように見てございます。

次に、15ページをご覧ください。こちらは図表21と22ということで、雇用力と稼ぐ力の推移というものでございます。すみませんが、こちらは最初にグラフの訂正をお願いしたいと思っております。グラフの縦軸に雇用力というところがありますが、その7%あたりを見ていただきますと、83飲食店というように書いてございますが、これは83医療業の誤りでございますので、訂正をお願いしたいと思います。

雇用力のある産業といいますのは、従業者数の多い産業でありまして、グラフの上側に位置しているものが雇用力があるものと言えるかと思えます。また、稼ぐ力のある産業というのは、従業者比率が他の地域に比べまして高い産業で、ほかの地域と比べて総体的に稼ぐ力を持っている産業ということでございます。雇用力と稼ぐ力ともに北区がどの産業に強みを持っているかというのを把握するためのデータでございます。こちらでも経済センサスの平成24年調査と平成26年調査というものを比較しておりますが、前回のその前のデータと比較しまして、大きな変化というのはないような状況でございます。図表22のほうで雇用力と稼ぐ力のある産業というものをお示しをしています。

以上が資料2番のご説明です。

続きまして、資料3に移りたいと思えます。

ピンク色の冊子をご覧くださいと思います。こちらは北区で5年に1回実施している北区人口推計調査の報告書というものでございます。委員の皆様には冊子をお配りしておりますが、傍聴の皆様には本日説明する箇所を抜粋してお配りしておりますので、ご了承ください。

では、委員の皆様、報告書の本編のほうの60ページというところをご覧くださいと思います。資料編というのがありまして、資料編の中の資料1というA3の折り込みになっているところをご覧くださいと思います。報告書の60ページの次からが資料編になっています。資料編の最初のページをご覧くださいと思います。

今回の人口推計なんですけれども、平成30年、2018年からの20年間ということで推計をしたものでございます。北区全体の人口というところなんですけれども、総人口というところが一番上には書いてありますが、あとグラフでも見ていただけるかと思うんですけれども、平成40年、10年後の2028年になりますが、そこで36万2,006人というようになり、ピークを迎えまして、その後は減少していくような推計になっております。

資料1の上のほうを見ていただきますと、一番上に総人口、内訳としまして、日本人人口と外国人人口というものをお示しをしております。外国人人口について少しご説明をしたいと思います。

今回から北区では、外国人の方につきましても、年齢別、北区を七つの地域に分けた推計というのも行ってみました。外国人人口なんですけど、平成30年時点で2万954人というような数字でございましたけれども、今回の推計期間の20年間におきましてはずっと増加を続けまして、20年後の2038年には3万518人になるというよう

な推計結果というふうになりまして、日本人人口が1回ピークを迎え、減少に転じると比べまして、外国人人口に関してはずっと伸び続けるような推計結果になったということでございます。

次のページ、資料2をご覧くださいと思います。こちらは年齢別の人口推計というものでございます。資料2-1の上のほうから見ていただきますと、上段のところは、5歳階級別の人口推計ということになっております。その下が年少人口の内訳というようになっておりますが、ここの内訳をまずご覧くださいと思います。

まず0～5歳につきましては、平成36年の1万8,331人というところまで増加をしまして、その後、減少に転じるようになっております。

次に、小学生のところを見ていただきますと、平成42年のところで1万7,569人というところまで増加をしまして、そこがピークとなって、その後、減少に転じるということです。

その下、中学生になりますけども、平成47年の8,948人というところまで増加し、その後、減少していくような推計というようになってございます。0～5歳の人口が先にピークを迎え、その年代の人口層が移動していくために小学生、中学生のピークはもっと後の年度になって訪れるような推計になっているということでございます。

その下段が年齢3区分別の人口ということでお示しをしております。年少人口につきましては、平成45年にピーク、そして生産年齢人口につきましては、平成40年にピークを迎えまして減少に転じるというようになってございます。

高齢者人口につきましては、平成40年までは減少を続けまして、その後横ばいとなり、平成45年以降はまた増加に転じるといったような推計結果というようになってございます。

内容の説明、恐縮ですが、資料3につきましては以上でございます。

続いて、資料4のご説明をさせていただきますと思います。

こちらは北区版総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の29年度実績の一覧というもので、毎年度お示しをしているものでございます。まず、表の見方につきまして、ご説明をさせていただきます。

一番上の欄を見ていただきますと、目標指標というのがありまして、隣に現状値というようになっております。現状値のところ、平成27年度末、平成28年度末、平成29年度末ということで、それぞれ実績値をお示しをしております。そのお隣の欄につきましては、対前年度増減ということで、平成28年度から平成29年度の変化の状況というものをお示しをしております。そして、一番右側の目標値というところでございますが、こちらは総合戦略を策定、あるいは改定した時点での定めた目標値ということになってございます。こちらは主なもののみご説明をさせていただきますと思います。

まず1ページのところです。基本目標Iということで、「子育てするなら北区が一番」をより実感できるようにするといったものについてですが、数値目標の二つ目のところをご覧ください。子育てファミリー層・若年層の人口ということでお示しをしているものでございますが、平成28年度末で15万3,388人というような数字でございましたが、平成29年度末時点で15万4,823人ということで、プラス1,435人というような状況になっております。

次に、2ページにお進みください。基本目標Ⅱというところで、「女性」・「若者」・「高齢者」の活躍を応援するといった目標についてでございます。こちらは上段の三つのところで女性、若者、高齢者について、それぞれの就業率といったものをお示しをしているところでございますが、こちらは国勢調査のデータで取っているため平成27年10月時点のデータが最新というような状況になっているため、平成29年度末のところでお示しするものがなかったというようなところでございます。ただ、皆さんご存じのとおりですが、最近総務省で就業構造基本調査といったものの結果を公表いたしました。こちらで子育て世代の就業率というのが、全ての年齢層で上昇したというような結果が示されておりまして、また25歳から39歳の女性が働いている割合というのが、国全体ですけれども75.7%ということで、5.9ポイント上がって、過去最高を更新したといったような情報がございました。

次に就業率の次の次の65歳健康寿命のところでございますけれども、こちらは男性に関して0.02歳上昇したということで、女性は横ばいの状況だったというところでございます。

次に、3ページをご覧ください。基本目標Ⅲということで、「創造へのチャレンジ」によって、地域産業の活性化を図るという目標についてでございます。こちらは上から二つ目の創業支援事業計画による創業者数のところを見ていただきたいと思いますと思いますが、こちらにつきましては、平成29年度末で262人ということで、対前年度比でプラスの90人になったというようなことでございます。

次に、4ページをご覧ください。こちらは基本目標Ⅳになりまして、まちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信するといった目標についてでございます。こちらに関しましては、KPIの一番下のところですが、住みたい街ランキングということで、平成29年度末で26位になったということで、平成28年度末と比べましてプラス12位ということで上昇したというような結果が出ています。

資料4につきましては、非常に雑駁なんですけど、説明は以上でございます。

#### ○会長

ありがとうございます。ここまでのところ、委員の皆様方からのご意見は後でいただきたいと思いますが、今の事務局の説明について、何かわからない点、あるいは、もし少し質問したいという点がございましたら、まずお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

もしご質問あれば、後でご質問していただいても構わないかと思います。

次にですね、せっかく委員から「北区時間」を配付していただいたので、ちょっとご説明をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

#### ○委員

お時間をいただきましてありがとうございます。

お手元にこの赤い「TOKYO北区時間2018 このまちの一步奥へ」ということで配らせていただきました。これは東京商工会議所が東京北区観光協会と連携をいたしまして、また北区役所の皆さんからも、いろいろなお手伝いをいただきながら作りまし



た冊子でございます。前に2010年末から2011年にちょうどかかるところでございましたが、前回も同じような形で北区の地域を紹介する冊子ということで作らせていただき、その内容を一新して作ったのが今回の資料でございます。

我々の編集の方針としては、北区役所ができない、民間の出版社がやらない、そういう内容を随所に盛り込もうということやってまいりました。それは決してできないとかやらないとかいうことではなく、それぞれの役割の中でやっていくことがあるだろうということで、私たちの役割をしっかりと見つめながら、それを発信していくということでございます。いろんな切り口からご覧いただければというふうに思いますけれども、目的はとにかくこの会議の中でも、いろいろと議論がされておりましたけれども、北区のシティプロモーション、こういった冊子をより多くの方にご覧をいただくことで、北区が、私たちも、もともとよいまちだというふうに思っていますので、そこをしっかりとアピールしていきながら、今ご説明がございましたけれども、結果としては、ここに、この北区というところに興味を持っていただいて、訪れていただいて、最後は長く住んでいただく、そして、このまちが豊かで活性化されたまちになっていくと、そういうことの本当に小さなところからということですが、そういった気持ちで発刊をいたしました。

我々も、これは目にしていただかないと意味がないものですから、もちろん有力な方にお配りをするのもさることながら、例えば、北区内のビジネスホテルのフォーラムの一員として、ご賛同いただけるホテルには各部屋に置かせていただくとか、それからお医者様、歯医者さん、そういったところの待合室、とにかく役所の行政資料室とかというところに背表紙だけがあるとかということにならないようにいろいろ工夫をしております。また、広くメディア関係にも知り合いの方がいたら、ぜひその方に直接お送りしますから、ご一報くださいということで、1,800社の当所の会員にも呼びかけておりますし、このような機会も使わせていただいて、皆さんにも呼びかけをいたしております。これは2万2,000部を発行したんですけれども、これを10倍、20倍の効果を得るためには、いろんなところで取り上げていただければなど。メディア関係の方には何か取材しようかなと思ったときにぺらぺらとめくっていただいて、ああ、この切り口で行こうとか、そういうふうな参考にしていただければなどというふうに考えているところでございます。ぜひ今日、皆様、複数部数欲しいというお話がございましたら何部でも、私ども会社の倉庫にいっぱいございます。ぜひ皆さんにお分けしたいと思いますので、ぜひお声をかけていただきたいと思います。お時間いただきまして、ありがとうございました。

## ○会長

委員、ありがとうございました。

「北区時間」に、ご意見、ご質問いろいろあるかと思いますが、委員の皆様方のご質問、ご意見の時間を、後で1時間たっぷり取ってございますので、次に大変恐縮なんです、私のほうから、「近年の人口動向と外国人材の受入れの課題」ということで、簡単にブリーフィングさせていただければと思います。講義と次第に書いてありますが、そんな大それたものじゃなくて、少しこんなことが最近人口の世界で、あるいはさまざま

まなことが外国人人材の受け入れで、こんなことが言われているということ、簡単に時間も限られておりますので、ちょっと早口になりますし、完全にご説明できないところも出てくるかと思いますが、ご覧いただければと思います。

まず、1枚めくっていただきまして、最初に総人口の推移ということで、すみません、まずは日本全国の話を中心にさせていただこうと思っております。

人口の減少が始まったのは2008年の12月ということです。総人口、全国規模で。そうなりますと、大体10年近く既に人口は減少しているんですが、国勢調査が最も信頼がおけるものとする、2010年から2015年の間の5年間で、およそ日本全体で96万3,000人、これと和歌山県1県分に相当する人口が減少しております。また、2017年まで毎年、今、年間ですと、大体30万人前後、全国で人口が減少している。これが外国人人口も含めてということになりますので、それだけ出生数が大きく減っているということになります。

3ページですが、将来人口推計、これは2017年、昨年の推計のものでございます。昨年の国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、これから50年間で日本の人口はちょうど3分の1ぐらいに減っていくだろうということになります。先ほど北区の将来推計人口、これからまだ増えていくというのは、本当に日本全体からとすると、うらやましい限りではないかと思いますが、日本全体ではもう3分の1に減っていくということになります。

真ん中の小さな表ですが、75歳以上人口割合というのを見ていただきたいと思います。すけれども、今の世の中、高齢化といっても、65歳以上の方は非常にまだ若い方が多くて65歳で高齢者と言ったら怒られると思うんですが、75歳になりますと、さすがに、医療や介護、特に介護のお世話になる方も増えてくるということなんです。実は2015年の段階でもう8人に1人が75歳以上というのが日本全国の姿であります。それが2065年になると、4人に1人ということになっていくと。そういうふうな意味でいうと、高齢化というのが非常に厳しい状況が続いていくということになっていくだろうと。これ地域によって随分違うということも見ていただければと思います。

次のページですが、では、私は個人的には高齢化の深化というふうに申し上げていまず。高齢化、高齢化といっても、どのような人たちが増えてくるかによって全然違まして、60歳代前半だとか70歳代前半の方が増えていっても、それほど心配なことはないんですが、やはり70歳代後半の方。例えば、これ100歳以上の方だけを取って見ますと、現在既に6万人ぐらい、全国で6万人ぐらい100歳以上の方がいるんですが、とうとう何と2040とか50年になりますと、50万人余り。大体これ島根県と同じぐらいというぐらいです。島根県の人口全部が100歳以上の方だと。そのぐらいの100歳以上の方が出てくる。こうなったら誰が支えるんだろうということになってしまうんじゃないかと思えます。

一昨日ですか、平均寿命の昨年の結果が出たんですけども、日本の場合、男性は世界で3番目、女性は世界で2番目に寿命が長いということです。大体、男性、女性平均して85歳ですよ。85歳まで生きていくというのは当然だという、そういう人生設計をしていき、これ平均寿命ですから100年を生きるというのは当たり前前の時代になってくると。そのときにどうやっていかなければいけないのかなんていうことも、最近い

ろんなところで議論されております。人生100年時代という「LIFE・SHIFT（ライフ・シフト）」という本がありまして、これは私のゼミでも読ませています。これまでのように、教育、就業、それから引退という単線型の人生から、もう少しさまざまな途中で休んでもいいんじゃないか、途中で引退してもいいんじゃないか。また教育を受けて、さらに年を取ってから働いてもいいんじゃないか。さまざまな複線的な人生を描いていかなければいけないなんていうことが、この中に入ってまいります。

私は個人的には社会保障が専門なんですけど、こういうことをやっていきますと、年金だとか医療だとかといった制度そのもの自体をよく考えて変えていかなければいけないし、教育そのものも変えていかなきゃいけないのかななんていうことが出てくるかと思えます。

5 ページですが、そういった全体の話の中から、今度は地域別に少し、地域といっても大き目で東京あるいは東京圏ということで少し話をさせていただきたいと思えます。5 ページ、これは国勢調査を使ったものは右側で、東京都と幾つかのところは増えていますが、ほかの県はどんどん人口は減少しているという話なんですね。左側は、東京圏の人口の集中というのが、実は世界の中でも非常に稀なぐらい人口が集中しているところなんだということになります。ソウルの範囲をどこまで取るかによって違うんですけども、それを除いても、世界の主要な国の首都と東京圏というものを比較すると、東京圏の人の集まり方がすごく多いということになります。これは良いことでもあり、悪いことでもあるんだろうと思えますが、一応そういうようなことがあるということでございます。

6 ページを見ていただくと、これは非常に面白い図なんですけど、先日、まち・ひと・しごと創生会議の中に出された資料なんですけれども、東京圏転入超過数というのがありまして、これ東京圏という非常に大きな1都3県ということなんです。どこから来ているかというところで、地方の大きな都市から皆さん東京圏に来ていると。仙台、大阪、札幌、名古屋、神戸といった、まさに都市部に人が集まるというよりも、地方の大きな都市から東京に人が集まる、東京圏に人が集まってきている。こういうような状況というのはどう考えるべきなのかというのが大きな話の内容になっております。どんどん人が集まってくるだけがいいかというふうに安心してられないような状況なのかもしれません。

7 ページは今度話は変わりますが、人口推計なんですけど、北区さんがやられたような地域ごとの人口推計とは別に、国立社会保障・人口問題研究所が1,700ぐらいの地区、自治体全ての人口推計をやっていて、その将来の人口が2015年と45年を比較して、高齢化の比率、65歳以上の人口と20歳から64歳までの若い人口とを見たときに、ほとんど若い年齢層の人口が増える市町村なんていうのは、どこにもないというようなものを示したものです。4象限になっていまして、一番右下の象限で高齢者が減って若者が増える自治体というのは、そこは一つもないと。一番多いのは、高齢者が増えて若者が減るといふ左上の象限のところの自治体や、高齢者も減るし若者も減るといふ、そういったところが増えてくるというところで、全国の自治体の姿が随分変わってくるんじゃないかというようなところでございます。

8 ページは、これ簡単に話しますが、今年3月、社人研のほうで地域別の将来推計人

口ということで、今、申し上げました1, 700の自治体の将来人口推計を出しております。北区の人口推計を出しているのです、それについて少し見ていきたいと思っております。

9ページ、これ後で北区さん、先ほどの推計人口の比較をしたいと思いますが、これは社人研のつくった、いわゆる全国のある程度一つの目安となる将来人口推計です。どの自治体も将来人口推計をやっているのですが、それを全部合計しちゃうと多分日本の人口は1.5倍くらいになるだろうというふうに言われております。自治体ごとに相当高目に見積もるところも多いので。この人口推計というのは全部の合計値が1億2,700万人、つまり日本全体の将来推計に合うような形で調整をしているものです。それを含めて北区の場合の総人口ですね、北区の人口を単純に将来に伸ばしただけじゃなくて、全体的な調整を加えたものなんです、それでも、今後人口はそれほど減らないだろうというふうなのが出ております。2015年で34万1,000人を2045年で33万6,000人という形になりますので、まあそれほど減らない。ただ、ここで見ていただきたいのは、赤い線で描いたのがございます。人口の推計というのは、人が生まれ、死ぬだけじゃなくて、死亡だけじゃなくて、外から人が入ってきて出ていくという移動のものがあるんですが、封鎖人口とって、もし北区に明日から誰も入れない、誰も出さないというような状況になったとすると、北区の人口は27万6,000人に大きく減少すると。これ明らかなことなんです、北区の人口の増加というのは、転出転入、特に転入によって補われるということを考えていかなければならないだろうというふうに思います。右側の図は東京全体に占める割合ということですが、これちょっと飛ばさせていただきます。

次のページですが、北区の高齢化の指標ということで、これも社人研の推計を示したものなんです、特に75歳以上人口の比率というところを見ていただきますと、北区はある意味で急激に若返るというような形になっているようなんです。多く外から人が入ってくるというのは、多くの方が若いので、この推計で言うと、今は北区は東京都全体から見れば若干高いんですけども、東京都の中でも若くなるというのが、この推計から見えてきます。

11ページですね、これ先ほど事務局からご説明いただきました北区の人口推計調査の社人研との比較をしたものであります。上の11ページの左側の図の赤いところが先ほど事務局のほうからご説明いただきました北区の人口推計調査。その下の黒いところが社人研の推計ということになります。なお、その下に2本あるんですが、黄緑のやつがこれは封鎖人口ということで、移動がない場合。さらに青いのが、これ2013年、5年前の推計ということで、たしかこの創生会議の初めのごときにご説明申し上げたのが、この推計なんです、5年前と比べると全然結果が違ふと。社人研何考えているんだということで批判したいぐらい、大きな幅ということでもあります。実はこれにはいろんな裏話があるんですけども、今回少し人口の移動を多目に考えるというところが、前回との違いのようではあります。

ちょっと飛ばさせていただきます、次に12ページなんです、23区の合計特殊出生率。これは事務局のほうからご説明いただきましたので、ご説明は要らないだろうと思いますが、2016年、23区ごとの合計特殊出生率の順位をつけると、北区は最

近少しは良くなっているんですけども、23区の中で相当上のところにあるわけではない。真ん中よりはやや上位というところなのかもしれません。面白いのは豊島区あたり、一番近くのところなんですけど、結構低いところなんで、豊島区は1.02とか、台東区も意外と低いとかですね。そんなような形のものがございます。

そして、次のページは北区の人口ピラミッドということで、実はこれ数だけ、あるいは比率を見てもなかなかわかりませんが、絵で見るとわかりやすいかなということで、将来、これは社人研の推計を基にしたものなんですけども、2015年の北区の男女別の人口を年齢別に積み上げていくと、左の図のような形になっていまして、若い人口が少なくてという、そして30代から40代のところがちょっと多くてということになります。2045年になりますと、全体的に少しスリムになるということなんですけど、全体的な構造は変わらない。ただし、もし万が一封鎖人口で誰も人が入って来ないとなると、右側にありますように本当に底のほうはほとんど誰もいなくなってしまうような、あるいは根っこがぼろっと折れてしまうような、こんなような状況になるということです。何が言いたいかということですね、北区が発展していくためには外から来る人たちをいかにして受け入れ、大切に、移住してもらおうか、そこで住んでいただくかということが大事だということをお願いして、こんなような図を作っているということでございます。

時間が限られていますので、人口のほう早目に終わらせていただきたいと思いますけど、次の14、15ページはご参考までにとということで、2045年までに人口が減るところ、増えるところはどこなんだという一覧表であります。増えるところだけ見ていただくと、1,700ぐらいの自治体の中で一番人口が増えると予測されているのが中央区、東京都の中央区です。それから港区、千代田区といった東京都の都心に人口が増える。絶対数はそれほど多くないとしても、増え方が大きいというのは都心の3区だというような形で今出ております。

それから、15ページは23区の人口の増加率を見たもので、北区も増えていくんですが、それ以上に増えるところも多いと。一番多いのは中央区、港区、千代田区といったところが大きく増えるというようなところでございます。

それから、16ページは23区の高齢化比率を示したものです。また後でこの辺はご覧いただければというふうに思います。

さて、出生の動向ということで、全国の話をしただけさせていただきますと、北区が少し上がってきた半面、日本全体の出生率は若干落ち気味といたしますが、ほとんど上がってないという、1.43、2017年に1.43ですので、ほとんど変化がないということです。ただ、もっと心配なのは率は上がっているんですけど、数が減ってくる、そういう恐れがございまして、今年の出生数が96万6,000人ということでございました。日本全国で100万人を切ってしまったということで、第一次ベビーブームのころは200万人を超えていて団塊世代の方々は270万人ぐらいいらっしゃったんですけど、それに比べると非常に少ないと。今、大学の2年生、3年生の20歳前後というのは120万人ぐらいの生まれなので、それから考えても20万人以上減少しているということです。そんなことも考えていくと、非常にいろんなところで心配が出てまいります。

次のページ、これはちょっとすみません。私が去年ですね、フィナンシャルレビューという財務省の学術誌に出させていただいた、出生率が高い市町村と少子化対策との関係は何かあるのかということで、実証的に示したもののなんですが。やっぱり女性の労働力率が高いところ、それから保育所が整備されているところ、それからこれ1,700の自治体なので余り細かいデータは取れないんですが、児童福祉費なんですね。児童福祉費にどれだけお金を使っているか。それから待機児童数。こういったところが常識的なんですが、児童福祉費をたくさん使っているところとか保育所を整備しているところは出生率が高いし、待機児童が多いところは低いというようなところが数字で出てきたというようなことを明らかに示したものです。新しい何かはそんなにはないです。1,700の自治体を全部扱ったというのは初めてのことだということで出させていただいたものになります。

それから、以上が人口の話で、持ち時間あと3分30秒なので、少し外国人の話をさせていただきます。

先ほど北区の外国人は2万人から今度は3万人ぐらまで増えていくという、そういう予測がございました。今、日本全体で言う外国人の人口というのは256万人です。これ12月現在の数字、住民登録の数字で、3月の新しい数字は出ているんですが、すみません、12月末ということで、それで256万人ということになります。まずこれ日本全体から言うと2%程度ということで、先ほどお話いただきましたけれども、2万人で30万人の北区の割合からすると、非常にまだまだ全体としてはそれほど多くはないのかなと思います。最近急速に増加しております。

じゃあ、どのくらいの方が働いているのかということになりますと、これが大体128万人程度、このうち働いているということになります。インバウンド3,000万人という話がございますが、実際日本で住んで、あるいは働いている方々というのは、このくらいの数ということになります。これもまた後でお話をしなければいけない、骨太の2018年、外国人労働者を少し入れるということが出てまいりました。具体的な話は今後、どのような人たちを入れていくのか、どういう業界へ入れていくのかなんていうことが明らかになっていくんだろうと思います。いずれにせよ、今後外国人の方が増えてくることは間違いないだろうと思います。

日本の場合、ご存じのように非常に外国人の割合が少なく、左側のOECDの主要国の中で外国人の割合を示したもののなんですが、丸で書いてありますように、主要国の中で日本は最も少ないというようなことがございます。これまで外国人の労働者を入れていく中で、さまざまな課題もございました。社会的な問題、住宅、コミュニティ、学校の問題、安全の問題、あるいは財政的な負担。外国人労働者を入れて、これが未熟練の方が多いと、いろんな生活保護だとか医療だとか、逆に日本人の負担が増えるんじゃないか。あるいはそういった未熟練の方が入ると、日本人の仕事を減らしてしまうんじゃないか。不法移民になるんじゃないか。いろんな課題が言われております。ただし、実証研究の中では外国人、未熟練労働の方が入っても、実は余りネイティブといいますか、国内の失業率が上がるということは余りないという結果もあつたんですね。なかなかここも難しいようなところもございます。こういった問題があると。

現在、外国人を入れていく中に大きな二つの制度がありまして、一つは技能実習制度、

これは特にアジアからの方が多いんですけども、未熟練労働の方が来て、日本で仕事を覚えて、また帰られるというような形なんです。現実ではそうなっているかどうかはいろんな課題があるんですけども、現在の人手不足を解消する大きな役割になっているのがございます。昨年、これに介護というのが入りまして、介護の人手不足を解消する一つの方策として技能実習生を使うということになりました。

次のページが高度人材ポイント制度ということで、これ外国人の方でも高度技能を持っている方を優先的に日本で在留資格で働いていくような仕組みでございます。今度、新しく秋からと言われています、新しい外国人の受け入れというのは、技能実習からちょうど5年で技能実習生の方はちょうど帰らなきゃいけないんですけど、さらにそれを延ばして新しい資格を与えようとか、そういうようなことが議論されているようです。どれだけ受け入れるかどうかというのはなかなか難しいですが、23ページは、今、日本にいる外国人労働者の内訳ということになります。

ちなみに最近目立ちます居酒屋で働いていらっしゃるような方々、これ多くは留学生になるんですね。そういった方々が多いということもあります。資格外活動ということで、その資格外活動のアルバイトの方々とか技能実習生、あるいは在留資格で働いている方、それも含めて128万人ということになっているということでございます。

最後は24ページ、今、申し上げましたけれど、これ新聞からの記事なんですけど、単純労働に門戸を開く、建設や農業ということで、製造業の中で幾つかそこに入れていくという話も出ておりますが、そのような記事。

それから、25ページは今回の骨太2018の中で政府が入れていくということの方針です。外国人材の受け入れを拡大するためには、新たな在留資格を創設すると。ただし、移民政策は取らないということですので、家族の帯同は認めない、さらには一度帰らなければいけないというような、そういうようなことを含めて意見というふうな議論がなされているようです。

最後、26ページは、我が国の外国人労働者受け入れに関する経緯ということですので、これはまた後で見ていただければというふうに思っております。

27ページが、ここが一番大きな課題なんだろうと思いますが、もし外国人の方が増えて、定住して、地域社会にどういった影響を与えるのかということなんですけど、これ三菱UFJリサーチ&コンサルティングが、ちょっと古いですけども、ヒアリング等のアンケート調査をやったものなんですけど、外国人の方々が増えることによる効果としては、多言語・多文化を学ぶきっかけになる、あるいは地域住民の国際感覚の醸成につながるという肯定的な意見もある一方で、右側にありますように課題として、文書・案内などの多言語化が必要になるとか災害時の対応が困難になる、地域住民とのコミュニケーションがとれずトラブルになるといったようなことを挙げている方々もいるということです。

ということで、すみません、非常に短いブリーフィングで申し訳ないですが、北区の場合には私個人的には、今後北区が発展するためには、来ていただく人たちをいかに定住化していただけるかどうか。そしてまた、本当に来ていただくために何をすべきかということが大事だということで、外国人問題と言え、地域の中で、こういった方たちと、さらに増えていったときに問題を起こさず、うまく共生できるような社会

づくりというのをいかにして進めていくのかということが大事なのかなというふうな形で思っております。

以上、すみません、大変雑駁な話で申し訳ございませんが、以上が次第の（４）ということでございました。

ということで、続きまして司会のほうに戻らせていただきたいと思います。

それでは、今、事務局より説明がありました。また、委員からも「北区時間」のご説明をいただきました。そして、私のブリーフィングもございましたが、全てに関してでございますが、ご意見あるいはご質問等、お1人5分程度でいただければというふうに思っております。いつも委員から大変恐縮なんですけど、よろしいでしょうか。委員からよろしく願います。

## ○委員

たくさん資料と会長のプレゼンということで何とかついていけました。あとそれよりも何よりも「北区時間」を大分読み込んでおなかがすいてきました。いや、行きたい店がいっぱいあってすごいなと思えました。

最初に、私は住宅分野が専門なので、そこに関連するところで面白いなと思ったので質問と、私の仮説が皆さんにどう思われているかということで事務局にお尋ねしたいんですが。こちらの資料2の1枚めくって2ページ目、自然増、社会増、人口増減と書いてあるところがあると思うんですが、北区はこの約20年の人口増減を見ていくと、一律で人口が増えているわけでもなくて、増えている時期と減っている時期があるんですかね。いつ減っているかということで言うと、ちょうどリーマンショックの前が2007年から2008年でどんどんと人口が増えて、リーマンショックの後、東日本大震災の年までが人口減少していて、そこからまた人口が増えていると。これが主に社会増減による影響値であるというふうに出ています。

会長からも、ほかのまちからの人口流入というのが北区の一つの大事なポイントじゃないかという話がある中で、ここで経済動向と社会増減というものが、ほぼリンクしているように見えるんですけど、これがなぜそんなふうになっているのかということに少し関心を持ちました。もしかするとですけれども、もうちょっと細かく地域別にこれを見ていくと、例えば、分譲の大型のマンションみたいなものが、景気がいいときにはどんどんと建って行って、リーマンショックなんかで結構経済動向が厳しくなったときには、供給を控えるというのがデベロッパーサイドの動向としてありますけれども、そういったものが、もしかしたら影響しているのかもしれないなということがあって、ここは今後、まあ住宅政策だけで人口の増減が決まるとは思いませんが、割と重要な部分なのかもしれないので、もう少し詳細で、なぜ増えていったのかということを見ていただくといいのかなというふうに思います。

ちょうど今、東十条と王子神谷の間で長谷工さんが中心となって大型のマンションを開発していると思いますけれども、そういったものとかが、要は大型のものが出たときにどんどん増えて、そうでないときに減っているみたいなことも、一定の影響が、個人的にはあるんじゃないかと思えたので、ちょっとそこをどう見立てていらっしゃるか、もしあれば教えてください。



## ○区

ありがとうございます。確かに経済動向というところを詳細に分析というところまでは、まだできてはいないんですけども、委員がおっしゃるように、やはり景気がいいときというところでは、住宅の供給というのは増えてきているというのはあるかと思っています。なので、全く関係がないとは思っていないということと、あと2012年以降ずっと増加の状況が続いています。この増加の状況を見ていくと、やはり大型マンションの建設による人口の増加というところは大きな要因だと思っています。今回推計をするに当たっても、その大型の過去5年間の人口とその変化率から将来推計は出しているんですけども、直近の5年間だけを見てしまうと、大型マンションが非常に建設されていたということがあるので、ある意味直近5年間の特異な現象というようにも捉えられる部分もあるかなと思っています。今回の推計をするに当たっては、過去5年間の100戸以上のマンションについては、将来推計をするときには、その要因は除いた形で社会変化率、移動率というのを出して、将来推計をしているというようなやり方をしています。

すみません、ちょっとお答えになっていないところもあると思いますが。

## ○委員

ありがとうございます。今の少しまさに次の質問というか、意見として言おうと思ったんですけど、我々リクルート住まいカンパニーの見立てでも、これから分譲マンションの供給戸数は減ると見えています。というのは、やっぱり建築費の高騰がかなり長期的に効いてくる。先ほど建設の外国人受け入れという話がありましたけれども、かなり厳しくて、つくる人がいない。建築費の高騰がとまらないということがありまして、今後分譲マンションで人口を増やしていくという方向性というのは、少し危険かなというふうに思っています。ですから、もう一つの方向性としてはやっぱり戸建ての住宅。戸建ての住宅はそんなに単価が高くは、そこまでマンションほど高くはないので、戸建ての住宅を比較的通勤圏の中で、どうやって建てていくかというふうな話の一つと。それと、やはり賃貸住宅による建設での人口増加をとっていくのが一つの大きな流れかなというふうに思っているんで、これは意見として申し上げたいと思います。

もう一つ意見としては、もともと北区って、特に女性で子育ての人たちにフォーカスをして、ふるさと北区みたいな形で標語を掲げていらっしゃったので、最重要KPIみたいなものとして何を置くかというときに、人口の流入をもってそこを主軸にするのか、それとも出生率を上げていくというところを主軸にもっていくのかというところは、明確に多分もう少し打ち出して、もし例えば人口自然増を狙って、自然増は無理かもしれませんが、出生率の増加であるというようにところを狙っていくのであれば、それに向けてさらなる進化を遂げていくところ、あるいはこれは質問になりますけれども、今のところ、それに寄与するところで政策として特にやっている中で、これは何か効いているかもしれないなという実感があるところが、もしあればお聞かせいただいて、そこを強みとして伸ばしていくみたいなことができればいいのかというふうには思っております。何となく人口の場合は仕方がないところがあるんですが、メディアの立場か

らすると、やはり出生率が高まっているというところが、とても共感性があって記事にしやすかったりするところもあるので、ここ数年、1、2年でやられている中で、出生率の増加に多少寄与するパラメーターとして、どんなものがあるのかな。あるいはここをちょっと伸ばしてきたことが、もしかしたら効いてきているのかもしれないなみたいところが、もし知見があれば、なかなか難しい質問かもしれませんが、お願いします。

## ○区

ありがとうございます。実はやっぱり本当に5月に35万人を突破して喜ばしいというようなことでプレスリリースしたりもしているんですけど、やはり議会等でも、なぜ増加したのか、要因をどう捉えているのかということは結構聞かれています。そんな中で先ほど申し上げたように、やはり大型マンションの建設ということは、もちろん一つの要因ではあるとは思っているんですけど、「子育てするなら北区が一番」というキャッチフレーズを掲げ、保育所の待機児童の解消をはじめ、さまざまな子育て施策に力を入れてきたというのは事実だと思っています。その中で、例えば、子育てしながら働きやすいまちとか、いろんなランキングがいろんなメディアで取り上げられていて、その中で結構北区が最近ランクインしています。ベスト10などに。全国的な規模の調査でも入ってきているというところもあって、やはり子育て施策に力を入れてきたということは一定の評価は得ているのではないかなと思っています。子育て世代にとって魅力的なまちであるということが、まちの価値全体にも、もしかしたらつながっているのかなと思って、土地があるという状況と、そこがうまくつながりあいながら大型住宅の建設につながっているというところもあるのではないかなと思っていて、うまく相乗効果として、子育て施策と住宅施策というのがつながっている部分というのものもあるのではないかなというように思って、議会などでもそんな形でお答えさせていただいているところがあります。

## ○委員

最後として意見ですが、住みたい街ランキングが目標の30位を切って28位に入ったということで、すばらしいなというふうに思いました。

その分析、今日はお持ちできていないんですけども、一つ、ここ最近の住みたい街ランキングの特徴で見えてきたことというのと、今年は大宮が9位に入って、浦和が10位に入ってということで、地方の中核都市の順位が結構人気が上がってきたというふうな傾向がありました。ほかにも順位を上げたところでいうと、海老名であったりとか藤沢であったりとか、あと柏であったりとか、立川はそんなに上がってないですが、上位ということ言うと立川。何かというと、その地域の中において中核というもう目立ったところがあるところにどんどんと人気が集まってくる。都市一極集中というのもあるんですけども、もう一方で中核都市に少し人気が集まっているというふうな傾向がよく見られています。ですから、まず大事なことは、ここ最近赤羽の人気が高まってきたところが、それをさらに深化させていって、赤羽がやっぱり中核の駅としてのブランドをどう高めていくかということが、極めて重要かなというふうに思っておりますし、前回もお伝えしましたがけれども、もう一つの中核駅の候補である王子駅をもう少し中核

駅にするにはどうしたらいいかみたいなことを、今後もう少し強化されていくと、メディアの取り上げがいっぱいあると思いますし、その意味で私も全然知らなかったんですけど、北区にたくさん素敵なお店があったりとか、文化があるというものを取りまとめた冊子が、もっともっとメディアの方にたくさん届くと、すごくこれからさらに中核駅、人気都市にしていくためのブランディングには寄与していくんじゃないかなと、これはとてもいい発行物ができたなというふうに捉えております。

以上です。ありがとうございます。

#### ○会長

どうもありがとうございました。

では、続きまして、委員、お願いいたします。

#### ○委員

まず、「北区時間」どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。僕も大体北区で飲み歩いているんですが、僕の好きなお店が大体網羅されていて、さすがだなというふうに思いました。ありがとうございました。

ちょっと、ご意見が基本中心ではあるんですけども、幾つかご質問を含めてなんですけれども、まず一つが先ほど資料の中に出てきましたけど、平成30年に比べて、平成50年のほうが高齢化率が低くなっているデータが初めて僕は拝見して、20年後にさらに今よりも若年化しているというのは、推計ではあるけれども、すごいことだなというのが実感としてあります。ただ、一方で蕨市であるとか、さいたま市とか、近隣のちょっとこういった委員会にもご一緒している中で、あちらは実際にやっぱり北区との流入・流出の関係性が非常に強かったりして、それぞれの地域での人口増加を一応描いているので、実態としては、その差引がどうなっているのかなと、すごく現実の推計のギャップというものについて、実際にちょっと僕は専門ではないんですけども、実際に現実はどうなのかなというふうにちょっと考えたというのがございました。

まず、一つ目なんですけれども、先ほどちょっと委員からのご質問にも関連してくるところではあるんですけども、例えば北区が23区で高齢化率がかなり高いという一つの要因としては、例えば公団のような部分が一つ要因としてあるんじゃないかなと。ただ、例えば赤羽台団地が今現在段階的に東洋大学でかなり若い人たちの一つコミュニティに変わっていった、これは住民でなかったとしても、学生のまちになることによって、近隣の住宅にまた学生が入居するということも含めて、例えばそういったシンボリックな高齢化の公団がある意味が大学に変わって若年化していくような形を含めて、今後例えば北区の中で桐ヶ丘にしろ、豊島五丁目団地、いろんな公団を含めて、多分20年、30年先になってくると、多分耐震の問題とか、耐久年度の問題からすると、何かやっぱり新しい施設に変わっていく時期が来るのではないかなと。

先般の北区で霜降の商店街なんかも水道管が破裂するように、いろいろ耐久の問題として、例えば公団もそうですし、あとはいろいろな住宅や商店街を含めて、どこかの多分ステージの中で、ある程度計画的に改築であるとかしていけない限り、多分ここは住宅の受け皿とやっぱりこの人口増加というものは、多分両輪で回っていく要素があると

思うので、今後20年、30年の今後の住宅であるとか、ハードの計画と住民の増加というものが多分、どうリンクしてくるのかなという部分に関して、ちょっと僕は専門ではないんですが、かなりセットで考える部分があるんじゃないかなと。つまり、人口の増加という数字だけを上げるのではなくて、それに伴うやっぱりさまざまなハードの計画というものが結構重要になってくるんじゃないかなという感じもいたしました。

それから、あと先ほど流入人口によって人口増加というのが、一つこれはうれしい話ではある半面、やっぱりこのまち・ひと・しごとの一つの創生戦略の中として、やっぱり子育て世代の人たちがというテーマもやっぱり不可欠なことだと思っていまして、今日は余りそこら辺の議論というか、内容の部分が言及がなかったんですけども、やっぱり「長生きするなら北区が一番」と同じように、「子育てするなら北区が一番」と、その子育て環境に対する政策というものも、今日の議論ではなかった部分ではあるんですけども、やっぱりそこを重視しながら、やっぱりその若い世代の人たちが長く住んで、子育てしながら出生率を上げていくという部分に関して、やっぱりこの戦略の中でも柱の一つとしてやっぱり議論すべき問題かなというふうに思っております。

それから、あと、一応創業の関係でいきますと、先ほど資料2の後半部分ですか、ページでいくと12、13あたりのページなんですけれども、例えばよくこれなんかはかなり細分化した形で事業所の推移ということで書かれているんですけども、例えば、工業、商業、サービス業と大きくりにした場合には、例えば実際にネスト赤羽という施設でも、現入居者を含めて約130強の創業者の方々が事務所として利用してきたんですけども、純粋なメーカーというのは過去2社だけなんです。同じように、北区のいろいろな相談とかを受けていても、年間で大体250から280件の、今年で13年目になるんですが、ずっとデータを見ると、ものづくり系のいわゆる工業系の創業に関する相談というのは、本当に少ないんですね。パーセンテージでいくと本当に1%、2%のレベルなんです。こうなってくると、大体メーカーといわれている、ここでいう製造業で恐らく事業承継の話であるとか、既存の企業さんがやっぱりメインである。新たにそこに参入する起業家さんって実は余り多くなくて、あったとしてもいわゆるOEMであったりとか、どこかがつくっている商品がある意味小売するとか、ある意味卸をするとか、ある意味でサービス業的な要素が非常に強くなっていくので、ただ、産業構造が多分20年、30年の中で大きく変わっていくんじゃないかなという印象があります。そういった中で、やはり北区の人口が増えるということだけではなくて、やっぱりその働く環境ということも20年、30年先の中で、今後どういう形での創業であるとか、働き方を見据えた中で、やっぱり北区の中で働きながら雇用を生み出して、ある意味納税してもらえそうな事業所を増やしていくかというのも、多分20年、30年の展望の中で少し戦略を持っていただくということも重要じゃないかなという感じもいたしました。

それから、最後になります。最近、やっぱり北区の中でいろいろな地域を拝見してみると、いわゆる住民によるコミュニティ活動が結構活発になっているなという実感があります。例えば、最近3年、5年前では余り見られなかった桐ヶ丘団地であるとか、例えば岩淵のあたりであるとか、そういったところも含めてかなり住民が地域の中でいろんな取り組みであるとか、連携をするというような取り組みも結構小さなものが大分

増えているなという実感があります。こういったものもある意味尊重していくことが、多分住民が愛着を持って定着していく中ですごく重要で、多分ほかの地域でもなかなか、ただ利便性がいから住むということだけではなくて、やっぱり顔の見えるコミュニティというものが防犯・防災を含めていろんな部分でも効果が高くなってくると思いますので、そういう部分もやっぱり手厚くサポートしていくということが、住民の定着率とか、愛着率を高めていく要素もすごくつながってくると思いますので、そのあたりもぜひちょっと重点を置きながらやっていけるといいのかなという感じもいたしました。以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。続きまして、委員、お願いいたします。

#### ○委員

資料2の6ページ、たまたま昨年1年間、私は文京区の白山支店という店舗に約1年ほどおりまして、ちょうどこの超過数という6ページのところに文京区、豊島区、16年、17年、1番多いという数字が出ております。文京区の話で大変恐縮なんですけど、文教都市というイメージ、それから交通の便、それから子育て、先ほど北区で力を入れていらっしゃるということですから、子育て政策、子育て環境、たしか豊島区さんが待機児童ゼロと出ていらっしゃるかと思ったんですけど、文京区のお店でもやはりそういう協賛ですか、そういった中で、認可保育園の建築だとか、かなり力を入れていらっしゃる場所のマンションがございましたので、やはりこういう環境で人が増えていく。それから、学生さん、文京区も東洋大学ですとか、各大学等々がありますけれども、学生さんは必ずしも文京区内に住んでいるかということ、なかなか文京区内で家賃等の問題もあって住んでいらっしゃるケースも多々あります。実際には分譲マンション、それから地域によっては本当に建てかえの時期に入ってきています。高層化になっておりますので、そういった方々のファミリー世代が増えているということが多くなるような話でございました。

それと、ちょっと話が飛びますが、15ページのところに印刷・同関連業というところがございますが、ここで印刷関連が稼ぐ力というものの上位に出ているということなんですけど、それで、文京区ですけれども、地場産業である印刷ですとか、製本とか、そういうところが、この表でいきますと数値が低いものに近いかなというところ、これは稼ぐ力がある、雇用の力があるというのとちょっと違う、絶対数の違いもあるのかなというところがあるんですが、ちょっとこの辺のところに関心があるところがございますので、質問というよりもちょっとした、すみません、感想になってしまうのですが、以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。

続きまして、委員、お願いいたします。

## ○委員

資料4のKPIのところをずっと見ていて、なかなかすごいなとしみじみと感心していたんですが、素朴な疑問なんですけれども、この目標を達成してしまっているところというのは、この後何かもっとテコ入れをすとかというようなことはあるんでしょうか。あるいは、その目標数に対して、ちょっと届かないというか、あるいはちょっと後ろに下がってしまったというものに対して、何か手を入れるというようなことがあるのでしょうか。ちょっとそれがこれを見てそうですねとは思ったんですが、これをもっと生かすために、何か施策があれば教えていただきたいなと思いました。

それと、もう一つはこの「北区時間」なんですけれども、これは無償でいろんなところにお配りしているというふうにおっしゃっていただいたのですが、例えば、定価をつけて販売するというようなことはないんでしょうか。たくさん人の目につくのって、高いお金じゃだめかもしれないけれども、書店とかに普通に並ぶのというのはすごいかなと思って、それだけのクオリティがある本ですから、そんなに高いお金じゃなくて、300円とかそのくらいかもしれないけれど、販売というチャンネルでの頒布というのは、結構いろんな人の目につくのかなと思いましたので、そういう計画があれば教えていただければと思います。

## ○会長

事務局、どうぞ。

## ○区

ありがとうございます。ご指摘のとおり、目標を達しているものというものもありますし、まだまだ、かなり目標が遠いぞというのも正直あるような状況です。この要因というのは探っていく必要というのはあると思っていますんですけれども、総合戦略、今31年度までの5年間の計画となっているので、その見直しということも今後どうするかというのは、考えていかななくてはいけないんですけれども、そういった際であるとか、あとは北区で基本計画の改定というのに今年度の後半くらいから取り組むようになっていきます。そういった計画を改定する際にも、今の事業がどうなるのか、やり方がいいのかどうかとも含め、検討していくので、そういったときにしっかりこちらに出ているようなものも材料としながら、次へつなげていきたいと思っています。

## ○委員

ありがとうございます。売れるというご評価をいただけたということが、一番うれしいと思っていますところですよ。

実は、これは先ほど申し上げましたように、2回目の発刊ということで、前回は東京都からの補助金を受けておったんですけれども、今回については商工会議所の資金だけで発行いたしましたので、そういう意味ではベースのところでは売ることが可能でございました。ただ、委員がご指摘のとおり、なかなか書店に並べるといことも大変大事なところだと思うんですけれども、いわゆる本を売るといのが、結構面倒くさいんですよ。あと、じゃあどのくらい刷って、戻ってくる、返品になったときにどうするん

だとか、値段をつけて売れなかったからタダで配りますというのもどうなんだという話があったりとか、もろもろご指摘のように、そういう売るということも含めて、実は検討はいたしました、結論としては売らなかったということです。ただし、この裏表紙のところに、今これは普通に意匠が表紙と同じなんですけど、ここのところにマンションの宣伝を、要するに広告を1面に載せて、それを実は志茂に三菱地所さんが今開発されているマンションがあるんですけども、これもいわゆる広告宣伝用に使っていただくということで、一括で1,500部くらいかな、三菱地所さんに買い上げていただいたりとか、今後もそういうような形でマンション業者さんには実はアプローチをしたりして、それをまた観光協会の財源にして再発進のようなことをしていくためにできればというようなことを考えています。

また、別にマンション業者さんじゃなくても、何か地域に根差した企業のそういうものに使っていただくとか、こういうのに使っていただくとか、そういうようなことを考えているというところでございます。

次回は、次回があればですが、また私がかかわればですけども、本屋さんで売ることもまた考えたいと思います。ありがとうございました。

#### ○委員

1点だけ。本屋で売るのは難しいです。なぜかという、定価をつけて、本屋側からすると、本屋で売っているものが無料でも配られているというのは、非常に本屋は嫌がるんです。だから、基本的には定価をつけて売るのであれば、定価をつけて売ると決めないと、本屋に怒られるんです。

#### ○委員

本の流通に乗せるというところではなくてもいいかなと思うんですよね。これが欲しい人が、例えば区役所だけで売る、区役所の書籍みたいなので売るということ、よく東京都庁とかでありますでしょう。都庁だけで刊行というか、行政で出している冊子みたいなやつが、ああいうふうな形になってもいいのかなというふうに、ちょっと思ったんですね。

結局、北区のどこかに行かないか、マンションを見に行かないとこれが手に入らないとするのであれば、それはすごくもったいないと思うんです。たまたまそこにふらっと来て手にするというだけでは、ちょっとこれは非常にもったいないことだな。だから、決して高い値段では、多分後ろに載っている「北区のKITAみち」が500円、ワンコインだとするならば、もっと下げてもいいかもしれないし、100円でも、100円だと赤字になっちゃうと目に見えているんですが、だけれども、宣伝と言いますか、頒布することによる効果というのも考えたときに、もう一つ言うと、タダだとぱらっと見て終わりになっちゃうというよりも、幾らか払う、単価を払うということによって、その持っているというか、その価値が上がる。タダだったらぽいっと捨ててしまうかもしれないけど、100円でも買ったとなったらちゃんと見る。いろんな視点があるかなというところなんです。ISBNをつけなきゃいけないとかいろいろあるのは、わかるんですけども、大きい流通に乗せるのもすごく大変だし、それだけの

手間がかかるのもわかるんですが、もし今回とは言いませんが、次の2版出るとか、改訂版が出るときに北区の魅力を出す、北区の魅力を発信するのに一ついい観点かなと思ったので、ちょっと一点思った次第です。

○会長

よろしいでしょうか。

○委員

いいですか、ちょっと一点だけ。売る売らないは別にしてなんですが、配り方として、今例えば7月29日にオリンピック・パラリンピックの2年前イベントというのがオリパラでおやりになるんですけれども、そういうのに参加していただけた方に渡すとかです、要するにキオスクというか、駅頭に置いておいて、自由に持って行ってくださいという、まさについでに持って行ったんだけど、別に、ああとと思ってばつというのがあるんですけれども、要するに地域に入っていこうとか、何か目的を持っている人にはこういうものにも関心を持っていただくというような、そういう複合的な要素があるときにお配りするという。今日も実はそういうことなんですけれども、多分捨てて帰っちゃう人はいないと思うんですよ。ですから、そういうようなことに区役所さんに半分押し売りで言われなくても持って行って、これをぜひお願いしますといいながらやっているんですけど、そんなことを自由にやるときに、片方で売るといようなことが非常に難しかったというようなところがありました。

いろいろ、本当にぜひ売るべきだという声もいろいろあったというのも事実なので、本当にありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。

○会長

ありがとうございました。だんだんと「北区時間」の戦略推進会議になってしまいましたけれども、続きまして、委員、お願いいたします。

○委員

「北区時間」の16ページに掲載していただきまして、どうもありがとうございます。30部くらいもらったんですけれども、3日くらいではけちゃいましたので、またぜひいただけたらと思っております。

あと、資料4に出ておりました、放課後子どもプランのわくわく広場なんですけれども、今、私十条と志茂のほうで子育てサロン「ほっこり～の」というものを運営しているんですけれども、起業してから7年、8年になるんですね、当時、赤ちゃんだったお客様たちが軒並み小学校1年生、2年生になっていて、その人たちが今スタッフとして「ほっこり～の」で働いてくださっているというような循環型になっているんですけれども、その1年生の子たち、わくわくができてすごく親は当初働いていなくても預かってもらえる、学童は働いていないとだめだけれども、働いていなくても預かってもらえるわくわくができてすごくうれしいと言っていたんですけれども、非常に学校さんによって内容の充実度が違うといえますか、すごく格差があるなというのを今「ほっこり～



の」にいろんな地域のママたちが勤めてくれているんですけども、わくわくに行きたがらないという声が結構ありますので、ちょっと数ができてきたというのはすごく嬉しいし、心の安定というか、いざというときにそこにいてと言えればいいというのはあるんですけども、4月から行ってまだ3回しか行かなくて、もう行きたくない、家にいるほうがいいとなってしまったとか、聞いた話で、これはお子さんを通してママが私に言ってきた話なので、どこまで本当かわからないんですけども、2週間同じスライムづくりというプログラムが2週間ずっとあって、1回しか受けちゃだめよと言われてたとか言って、それでほかの子たちがやっても自分ができないみたいな感じだったとか、子どもを介しての話なので、ちょっとどこまで本当かはわからないんですけども、楽しんで大人が毎日張り切って行くと言っているお子さんもいらっしゃるんですけども、行かないでうちにいるほうがいいやとなっていて、結局ママがそんなわけでごめんなさい、夏休みとか子どもが行きたがってないから、働きに行けませんみたいなことを言われたりとかして、何か中身の充実度みたいなものが見えてくるといいなというのを感じたところでございます。

あと、さっきから話題に上がっています、志茂地区にできる三菱地所さんのオイコス志茂のところ、実はあそこのマンションギャラリーさんでイベントを今やらせていただいている、月に二、三回あちらのほうに行っているような次第なんです。結構売れていまして、中国人の方もすごく多いなというのを感じています。また、地方から出てきて、知り合いが全然いないとおっしゃっている方も多いですね。あと、決め手はみたいなのが今壁に貼ってあるんです。なんでこのマンションを選んだかみたいのところ、ご契約者様の声みたいところで、やっぱり子育てがしやすい北区を選んだ、保育園が充実している、入りやすいと聞いたからなどなど、子育てというワードがたくさん書いてあるので、さっきおっしゃられていた保育園で待機児童数を解消してきたというのは、確実に効果が出ていることじゃないかなというのを行っていて感じるところです。

私どもに来る依頼としても、北区がいかに保育園に入りやすいかの保活講座をしてほしいですか、近くのなでしこ小学校について語ってほしいという、なでしこ小学校は全部床暖房が入っていたり、体育館も冷暖房が効いていたり、プールも屋根があって冬場はきれいにふたがされているとか、とにかく最新設備、歩くところを自動点灯したりとか、とにかくすばらしいらしいんですね。そこの会長さんなどに来てもらって、何を小学校でするというのを語ってもらう。そんなような形でとても子育てしやすい地域だということで、見たところ江戸川区とか、結構そういうところからの方も多かったような気がしています。

あと、もう一点なんですけれども、保育園がどんどんできてきて、ほぼほぼのママたちがそういうところ利用されてすごくいいなと思う反面、働かないことを選択したママたち、働いていないママたちの支援みたいなものも、もうちょっとしていただけたらありがたいなというのを感じております。2015年に立ち上げました子連れの有料職業紹介所、「ジョブリ〜の」というのを企画課さんからいただいたお話でやり始めたんですけども、今少しずつ芽を出してきていると言いましょか、子育て中のママたちと、地域の事業者さんをマッチングさせるというのが、少しずつ実ってきているところではあります。また、託児つきのコワーキングスペースのほうも人気でございまして、ゼロ

か100の働き方じゃない、10%、20%、40%のお子さんの大きさというか、成長に合わせて仕事をしていくというのが、やはり今とてもニーズがあるんだなというのを感じている次第です。また、保育のキャパとか、特に今予算とかもいただいているわけではないので、対応できる人数が5人、6人と本当に少ないんですけれども、でもこの育休中に保育士の資格を取って、転職を考えているですとか、旦那さんの個人事業主の会計だけを手伝っていて、週1回だけ集中して仕事がしたいとか、まるっと保育園に入るのではないライフスタイルを選んでいる方々の支援のほうもさらに私どももやっていきたいと思っておりますし、そういう方々の声を受けてやっている私どもを支援していただけたらなど、私たちのような事業者と言いましょか、していただけたらありがたいなと感じた次第でございます。ありがとうございます。

#### ○会長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、委員、お願いいたします。

#### ○委員

住民観点と、あと仕事の観点から見て、1点ずつあります。ちょっとこれに触れておかなきゃいけないので、「北区時間」ですけど、これは住民目線でいうと、44ページの王子駅のパン屋には全部に行っていて、明治堂さんを初め、王子って結構いいパン屋が多いので、よく捉えているなというのがすごく思いました。

あと、ほかにも西ヶ原近辺のカフェとか、よくわかるなというところがあるので、多分住んでいる人から、もしくは初めて北区に住む人とかにも結構提供できたら面白いんじゃないのかなというふうに感じました。

まず、本題の住んでいる人目線の話をする、先ほどの委員のほうからありました住宅供給量が減るといふところも踏まえての話なんですけれども、私は先月第1子を出産しまして、ということも契機に3カ月くらい前に今住んでいるところから引っ越しをしようと思っています。結果的には北区の中で引っ越しをしたんですけれども、引っ越したときに僕はずっと社会人になってから10年間東京に住んでいて、引っ越してからも東京で転居していて、車を持たない、いわゆるよくある世代で、結婚したので、いわゆる地下鉄とか、JRのあるところに住もうと思って、3LDKのマンションを探していたら、意外に北区ってちょっとそれに合うようなところがなかなか出てこなかったんですね。王子神谷とか、王子三丁目とか、ちょっとアクセスが悪いと言っては失礼ですけども、ちょっと歩くだとか、バス使いのところが結構あるんですけど、ちょっとそこだと仕事するにはよくないなというところで、探すとき意外にも1軒あるかどうか、分譲で買おうとしても、賃貸もそんなに出てこないというのがあったので、それで僕もどこに引っ越そうかと、本当は文京区に引っ越そうかなとちょっと思っていて、実は知り合いもママ友何人かは北区にいて、出産2人目とか3人目で結局出ちゃった人が3組ほど直近でいて、それを見たときに、この資料の見方がわからなかったんですけれども、資料2の9ページ目、転出後の住所地別割合というところで、これは30歳以降の話とかになっているんですけど、もしかしたらわからないですけども、世帯別で、2人世帯、

4人から5人世帯に移ったとか、家族構成が3人から4人になっちゃったりとか、何かそういったのももしかしたらあるのかなというのもちょっと思っております。調べようがあるのか、僕はちょっとわからないんですけども、感覚としてももしかしたらそういうタイミングで、区外に出るといったケースもあるかなと思ったので、もしお分かりになるようだったら教えていただきたいなというところです。

あとは、これはどちらかと言うと感想になるんですけども、仕事柄、いわゆる一次産業という農業生産法人とか、漁業とかそういうところのお手伝いをしている観点で、この資料2の15ページのところで、結局雇用力というか、人の話になってくるんですけども、結構一次産業の話をする、例えば有名どころだと静岡県の三ヶ日のみかんとか、あと5年以内に担い手がもういなくて、生産量が3割くらいに落ちちゃうとか、あとはほとんど東北のほうだと、今平均年齢が生産者で大体7、80歳だったりもするので、結構国策としてこの産業を維持しないといけないというところで、先ほどの外国人就労者を雇ってどうにかしようということをやチャレンジしています。そうなったときに、ちょっと全然違う観点なんですけれども、北区だとこれを見ると、縦軸の雇用率って裏を返すと人手不足ということだと言っているんですかね。北区としてどういう産業の担い手が少ないとか、維持できないのかという、倒産件数とかを見ればわかるかもしれないんですけども、現状でこの産業を維持していきたいとか、何かそういったものがあるのであれば教えていただきたいなという意見です。

#### ○会長

事務局、いかがですか。

#### ○区

ありがとうございます。今、転出の理由みたいなところがもし追えればというお話かなと受けとめをしました。実は、なかなかそこを追いたいと思って調査に着手したところもあるんですけども、多分可能なのは、例えば本当に転出の手続きとかをした人になぜ転出されるんですかみたいなことを追っていくと、すごく例えば家族が増えて今の住まいが狭くなってしまって、より広いところに行きたいとか、そういったことが追えるのかなと思っているんですけども、正直そこがなかなか今難しい状態というか、まだできていないところがあるかなと思っています。ただ、昨年度インターネットを使っての調査というのをチャレンジしてみたんですね。ただ、それは年代だけは絞ることができたんですけども、何人世帯の方というような形で絞ることができませんでした。そのため、今、委員がおっしゃったように、本当に子育て世帯の人とかがどんな理由で転出しているのかというのが、まだ正確にちょっと把握がなかなか厳しい状態というのがあります。

また、今は図表の12とかで、30～34歳と35～39歳というので取っているんですけど、これは別の年代もデータとしてはあるので、もう少し若い世代とかがどんな動きをしているのかというデータ自体は取ることができるかなと思っています。

また、もう一つのご質問です。どんな産業を維持していきたいかというところはあるんですけども、まずやっぱり北区にとって、印刷業とか強みのある産業というところ

はあると思うので、そこはやはり今後も強みとして生かしていけたらなと思っているのと、産業活性化ビジョンというのを昨年度の終わりくらいに作っていますが、そこではどんな業種というよりは、創業とかそういったところに力を入れていきたいというようなところも、産業活性化ビジョンの中で言っていたと思っているので、そのあたりは力を入れていきたいと企画課の立場でも思っているところです。

#### ○会長

ありがとうございました。私のタイムマネジメントがよくないので、すみません、まだ皆さんたくさんいらっしゃるんですが、今日はほんの気持ちだけ手短にお願いできればというふうに思っています。

委員、よろしくお願いします。

#### ○委員

大変参考になるというか、勉強になる資料であったり、皆さんのご意見を聞かせていただいて、非常に有意義だと感じております。

一つ、多分そういうデータはあると思うんですけれども、意外と北区は東京都内の中でも外国人の方の総人口に占める比率が高い区だと思っているんですけれども、歴史的に例えば在日の方が非常に多いとかというところは別として、6%を超えているのは非常に高い区だなと思っています。国籍別だとか、あと在留資格別の統計というのは、多分取られているのかなと思うんですけれども、その辺で何か特徴があるのかなというのが一つ。

実は、私も4月に赴任して、区役所の中にうちの出先で常駐している職員がいるものですから、そこに辞令交付しに行ったときに、住民登録の窓口ですかね、外国人の方が非常に多くて驚いたというような印象があったので、その辺何かデータがあれば教えていただきたいというのが一つ。

あと、子育てしやすいというふうなところに関係してくるのかなと思うんですけど、実は、区と社協さんと連携した福祉のフェアというのを年に3回くらい北とぴあでいわゆる就職面接会的なものをやらせていただいております、そこは北区さんにはいろいろお世話になってありがとうございますという話ですが、区内の保育事業者さん、結構今は民間委託しているところが多いかと思うんですけれども、その辺の待遇面について、働く保育士さんだとか、補助の方の待遇面とか、区のほうでそういう委託をするときに、何か指定しているのかなというところがちょっと気になってございまして、もしわかれば、教えていただきたいというのがもう一つでございます。以上です。

#### ○会長

ありがとうございました。事務局、状況だけ、ちょっと手短にお願いできれば。

#### ○区

まず、外国人の方の国籍というところで言いますと、中国が一番多いです。その次に韓国・朝鮮、次にベトナムが第3位、次にネパール、バングラデシュ、ミャンマー、フ

イリピン、米国、フランス、タイというような形になっています。すみません、在留資格についてのデータは取ってはいるんですけど、今ちょっと手元になくてご紹介できず、申し訳ございません。

また、保育園の関係で言いますと、指定管理ということで、区から委託と言いますか、しているようなところもありますが、そういったところにつきまして、やっぱり労働条件に関しても一定のチェックするような項目というのは設けていて、モニタリングというのをやっています。そこにおいて、きちんとそういったことが法令に基づいてなされているかとか、そういった確認はさせていただき、必要であれば、改善をお願いしたりというような対応もさせていただいているというところなんです。

#### ○会長

ありがとうございました。

委員、お願いします。

#### ○委員

意見を幾つか申し上げたいと思います。

まず、先ほど委員から最初にご指摘があった2ページの人口ビジョン、図表5のところですけども、2ページですね。これ、ちょっと今ちょこちょこ見たんですけど、基本的には経済情勢とかそういうこともあるんだと思うんですけど、見ているとやっぱり外国人の増え方に連動しているという感じがしますね。2013年から14年にかけては1,500人、14年から15年にかけては1,600人、15年から16年にかけては約1,950人、16年から17年では1,400人、ほとんどその分が増えているというような連動の仕方が見えるんですよ、結果的には。ですから、もちろんいろんな施策も含めて、効果が上がっていることも事実だとは思いますが、そこに全部帰結しちゃうというのは、多分間違うな。我々企業でもよくやるんですが、やってきたことのよかったことにしちゃうとちょっと間違うんじゃないか。むしろ、逆に外国人でもっているんだとすると、外国人が増えていること、先ほど会長のお話の中にもありましたけども、懸念材料のところを先取りをしながら懸念なく共生していけるようなことを考えていくというのが、非常に必要なのではないかなというふうに思います。特に、私も本業は建設業ですから、建設関係の単純労働では我々からするとないんですけども、技能労働者が入ってくるということになると、やはりそういうところが居住という地域になる可能性もあると思いますし、その辺もしっかりやっていく必要があるんじゃないかなと思います。

結局、そうだとすると、一番やっていないというか、こういうふうに景気とかそういうのに、経済情勢もそうだし、今の外国人もそうなんだけど、外部要因で左右されるというのは、やはり北区の弱いところとして、人口を増やしていくための都市計画ができていない。具体的な施策がないということじゃないかと思うんです。僕は産業活性化ビジョンにもかかわりましたが、あのときに驚いたのは、明確にいわゆる大きなマンションができるとか、つくるとか、そういうことは不確定要因だから、区としてはやらないんだというのを明確に言い切っていたんですよ。それじゃあこうやって左右さ

れます。景気の面とかで。だから、例えばさっきの委員の3LDKがないなんていうのも、これも我々のかかわる業者側からすると、12万円の壁とかというのがあるって、やっぱり45平米でも例えば12万円、それ以上になると、12万円以上取れないんです。そういったことがあるから自然に供給は少なくなるんです。さっきの王子神谷なんて言ったら、多分公団の話だと思うんだけど、ああいうところをつくったのしかない。安く貸せるとすれば、例えば今は規制なんですね。要するに、ワンルームをこれだけつくるんだったら、必ずそういう3LDKもつukらないとだめよみたいな言い方なんですけど、逆だと僕は思うんですよ。3LDKをつくってくれるんだったら、容積率割り増ししますよという話である。それがどこまで効果があるかはともかくとして、物の考え方として規制しているのであれば、規制を緩和していくという考え方でないと、人が増えていかないというふうに、僕は実感として思っています。3LDKとか2LDKの供給が少ないのに、「子育てするなら北区が一番」の効果が上がったというのは、僕は違うと思います。子どもさんが、まだせいぜい幼稚園が1人、また生まれたての方、今の委員の話じゃないけど、二人目が生まれたといったときには、移動を考えちゃうんですよ。

「子育てするなら北区が一番」は保育園くらいまでは効いているかもしれない。けど、そのくらいになると出ていけなくちゃというのが、実際の状況ではないかな。ここを改善していくというのは、ものすごく大事だし、これをやっていくのは都市計画のところではないと、僕はできないというふうに思います。ぜひ、ここは強化をしていただきたいと思います。

それから、これは北区のことをずっと書いているんだけど、いろんな皆さんの質問を考え合わせると、僕らもそういう分析書を執りますが、同じような規模のところの都市を比較した上で、北区がどういうポジションにあるのかという考え方はされないんでしょうか。例えば、武蔵小杉というところがありますが、人口が今どれくらいになっているかはわかりませんが、例えば羽田空港まで35分から40分くらい、東京駅まで20分くらいとあって、大体条件は同じような感じで、あそこは大きなマンションが駅前にできて、どんどん増えていますよという話がありますよね。それから、その発信力も含めて大きいデベロッパーさんが入ってこられるので、非常に発信力がありますよとか。例えば、そういうところと数値を比較していくことによって、何か見えてくるものがあるんですよ。武蔵小杉に限らない、そういうところが都内ないし首都圏に幾つかあるんだと。そういうところとやると、いろんな問題点が出て来る。直接この事業には関係ないと思うんですけども、王子駅前のグランドデザインなんかを考えるにしても、15、6万人の乗降客がある駅前広場としては、3分の2以下です、広さ。南と北と合わせて。そうすると、それでいいんですかという話になるわけです。だから、やっぱりそういう分析というものを取り入れていく必要があるんじゃないかなと思う。最後に、いろいろお話がありましたけれども、やはりそうは言っても「子育てするなら北区が一番」とか、さっき委員の話で、実際にそれでも入ってこられたらすごく教育環境もいいとか、そういうことを発信しているのはすごくいい、つまり、シティプロモーションの重要性です。僕は何年か前のまち・ひと・しごとのおとぎ話にも文句を言いましたけれども、その前年までシティプロモーションを「住めば、北区。」でもって一番にしていたのに、それが広報の下のほうにいつちゃっているという図表に文句をつけたことが

あったと思うんだけど、やっぱりシティプロモーションという話ならもっと上のほうに来るような仕組みにすべきじゃないかな、そんな考え方も含めて僕らもこれを出したんですけれども、ぜひ、そこのところをお願いしたいと思います。

○会長

ありがとうございます。事務局のほうでのお答えは、ちょっと後でまとめてお願いできれば。すみません、お待たせしました。委員お願いします。

○委員

民生児童委員という立場で、意見といいますか初めて出た会議での感想というような形になると思うんですけれども、私どもが関わっている人たちといいますのは、いろいろお金を稼ぐだとか、産業を興すという方は、少ないと思います。

民生児童委員として今一番関わりの多いのは、やはり高齢者、児童ということになると思います。

高齢者に関しては、関わる方がどんどん増えていて、すべての方たちを見回ったり諸問題をクリアするのは、大変難しい現状ではあります。

また、児童に関しては、学齢期や、生まれてすぐの子どもたちに関しての事。ご存じかもしれませんが、1歳になる子に、輝きバースデーという区の催し物の招待状を届けるのですが、外国の方が大分多くなりまして、留守の時に置いてくる連絡票の裏面には2、3か国の言語が書いてあるんですよね。会えたとしても、我々、外国語に全く弱いものですから、なかなか要件が通じないこともあって大分苦勞します。そういう意味では、この会議とはちょっと関係ないかもしれませんが、我々、民生児童委員の担い手が少ないことと、仕事がだんだん難しくなっているな、増えてきているな、ということを実感している状態です。以上です。

○会長

ありがとうございました。

委員、お願いします。

○委員

最初に質問なんですけど、会長に。

○会長

私ですか。

○委員

はい。外国人労働者のお話なんですけれども、日本は今外国人人口が少ない中で、一番のメキシコに続いてですね、これは移民政策を取ってないからということですか。つまり、ほかの率が高いところは移民政策を取っているということですかね。

○会長

ちょっとその辺はなかなか難しいです。そもそも移民政策を取っていないです。ほかの国も明示的に移民政策を取っているわけではないですね。

○委員

じゃあ、その明示的かどうかはともかく、移民政策まで踏み込まない限り、まあこれで増えていったって、せいぜい全国的には数パーセントというところですかね。外国人が。

○会長

いや、それは何とも言えないかなと思います。多分、2倍くらいになるかと。250万人なので、それが500万人。ただ、どこまで入れるかは政府の政策によると思います。

○委員

やっぱりなんらかの形で外国人の共生社会をつくらないと、まあ日本全国で見ると、これはトレンドとしては減るしかないなど。その中で北区、あるいは東京23区、特に都心3区も増えている、それだけを考えていいのかなというのは、私の今日の気分です。

北区の中で増えているのは、まだいいじゃないかじゃなくて、北区が首都圏、あるいは全国に果たすべき役割ってなんだろうということを考えると、というところで表なんですけれども、資料2ですね、6ページ、7ページあたり、それ以降ですけれども、相当いろんなところから人が転入してくるけれども、転出しているわけですね。これは川口だったり埼玉だったりするんですけれども、これが人の循環という中で北区が貴重な役割を果たしているということなんです。住宅だって、広い住宅を求めようというなら埼玉に行くしかないだろうという人は多いと思うんですよ。だけど、それを無理やりなんとかしようとしたって、経済原則に反しますので、出すのはしようがないですね。だけど、一方で資料2の図表4というか、最初のページですけれども、転入が増えていると言っているんですけど、転出も増えているんですね。これは何かというと、典型的にはどこかにこれは住んでいる、あるいはそこから転出しているわけですから、住宅が絡んでいるんです。ということは、分譲マンションであるより、これは賃貸です。いや、わかりませんが、賃貸がかなりの役割を果たしているなど。それを考えますと、北区というのはちょっと前まで建てかえをするために、空き家補充を停止していた公的賃貸住宅団地が足らなくなったんです。赤羽台、桐ヶ丘、これがどんどん建てかえがもうほぼ軌道に乗って、ほとんど終わっているんで、それでマーケットに出てきたので、住宅が。一時期建てかえで空き家補充の停止をやっているときには、減っていたんです、人口が。相当公的賃貸住宅が果たしている役割が大きいなど。この動きに対してですね。そこまでちゃんと詳しくは知っていませんけど。

もう一つは、これは委員に聞きたいんですけど、中古流通のほうが新規供給分譲マンションよりついに上回ったんですか。日本だって、特に東京は中古流通分譲マンション、



これがもっと増えている。価格だって新築買うより安いわけですから、新築じゃなければ嫌だと言っている場合じゃなくて、これからどんどん新築が高止まりしちゃいますので。ということを考えて、いろんな住宅の供給というよりストックをうまく活用しよう。その中で、北区が果たすべき役割はなんだ、子育て世帯、「子育てするなら北区が一番」で結構ですけども、そのままずっと定住するのという、そこはちょっと無理があるんじゃないですかと。そこに外国人も絡んでくる、本当に共生社会をつくろう、あるうちに北区がこんな役割を果たす、日本のために、そんなシナリオを描けたらいいなと思って聞いておりました。

#### ○会長

すみません、最後に委員、お願いいたします。

#### ○副会長

少しだけ申し上げます。まずは資料4のところに出てきましたけど、子育てファミリー層とか、若年層がだんだん増えていくということで、どうしてこれが増えていくかということに関しては、ロコミでは「子育てするなら北区が一番」がかなり浸透しているということは、この会議で委員のほうからも言っていたのですが、今、子ども・子育て会議のほうで、これから意向調査をやろうとしていまして、例えば10年くらい住んでいるか、あるいはそれ以上住んでいる人たちにこういった施策とか、そういう影響があるのかという質問項目を今回新たに入れますので、そこで施策の効果というのがある程度わかるのかなというふうに思っております。

それから、二つ目としましては、今回いただいた資料のほうに非常に関心がありまして、今日の会長のお話は本当はもうちょっとたくさん伺いたいなと思っていたんですが、そこで出てきたことで、例えば人口が今後2045年までに減る市町村、増える市町村というのがありまして、増える中で東京の中央区、港区、千代田区といったところはわかるような気がするんですが、地方都市で増えるところがどうしてなのか。これは委員がおっしゃいましたね、中核駅のところで人気が上がっているところがある、と。その辺がどうしてなのか。人気上がることはわかるのですが、その理由、根拠は何かというあたりも会長や委員から時間があれば伺いたいと思いますが、今日はちょっと無理かなと思っております。

それから、三つ目としましては、やはり外国人人口が私は非常に気になっておりまして、例えば学生たちが実習に行くと、保育園、幼稚園、こども園にたくさん外国人の子どもさんやそれから親御さんも来ていますので、現場の先生たちはそういう対応に苦慮して大変な努力をされているわけですね。北区全体として、教育、保育みたいなもので、何か検討しているとか、これも非常に喫緊の課題だと私は思っておりますので、その辺も今はちょっと時間がないかと思いますが、伺えればと思います。

そして、最後に「北区時間」については、私どもご近所ですので、大学のほうに送っていただいているかもしれませんが、もしいただけるのであれば、何部かいただけると大変ありがたいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○会長

ありがとうございます。宿題というふうにさせていただいてもよろしいでしょうか。これから事務局から説明があるかと思いますが、また次回以降ということで。すみません、時間が超越してしまったのですが、このあたりで本日の議事を終えたいと思います。最後に、事務局からお知らせ、あるいはご説明等がございましたら、お願いいたします。

○区

ありがとうございます。まず1点目としまして、今年度2回目の会議につきまして、昨年度は2回目も実施の予定ですというご案内をしておきながら、2回目は実施を見合わせたというようなことがございました。今年度に関しても開催の有無も含めて、現在検討させていただいております。開催するとなった場合には、12月から2月くらいの間に開催できたらいいと思っておりますので、早目にご連絡をさせていただきたいと思っています。

もう1点でございますが、委員の皆様の任期についてでございます。今年の7月26日までが現在の任期ということでお願いをさせていただいているところでございます。事務局といたしましては、ぜひ今いらっしゃる全員の方に再任をご依頼したいというように思っておりますが、いかがでしょうか。もし、個別にご相談等が必要な方がいらっしゃいましたら、お声をかけていただけたらと思っておりますが、できれば継続して委員をお引き受けいただけると、非常にありがたく思っているところでございます。

もう一つなんですけれども、2回目を実施するかどうかというのも検討中というふうに申し上げましたが、会議をもし行うとなった場合に、現在19時から2時間で設定をさせていただいておりますが、やはり時間が2時間だと十分ではないかなと思っております。もし、可能でしたら、次回以降につきましては、例えば18時30分スタートにさせていただきまして、会議時間を2時間30分取らせていただいて、21時までということでやらせていただけたらなと思っております。この点についてはご了承いただけるということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○区

では、日程等、会議の開催を含め、早目に決定をしてお連絡をさせていただきたいと思っております。また、本日ご質問いただいておりますお答え切れなかった部分等もございまして、それにつきましては、資料等を郵送させていただく形で対応させていただけたらと思っております。以上です。

○会長

どうもありがとうございました。今日は時間を超越してしまいまして、申し訳ありませんでした。以上で第1回推進会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。